Ⅲ　魚類防疫対策事業

小　川　　健・木　村　　創

目　　的

魚類防疫対策事業実施要領（1989年９月，水産庁）による。

事業の内容と結果

1　魚類防疫対策事業

1）　魚類防疫

(1)　魚類防疫会議

ア防疫会議

'91年４月18日，串本町において水産課，当場，水産業改良普及員，かん水養魚協会および各地域防疫検討会代表の出席により開催し，当場より'90年度県内魚病発生状況と養殖マダイのビバギナ症について説明し対策等を検討した。

イ　防疫検討会

海面養殖業者，関係漁協，水産課，水産業改良普及員および等場職員により，北，中部海域は10月29日田辺市で，南・東部海域は10月21日串本町で，'90年度県内魚病発生状況および養殖マダイのイリドウィルス感染症ならびにビバギナ症について検討した。

(2)　養殖魚巡回健康診断各養殖地域を毎月１～２回定期的に巡回し養殖魚の健康診断を行うとともに漁場環境の維持を図った。

2）　水産用医薬品指導

(1)　医薬品適正使用対策

県下の海面養殖漁場を巡回し，養殖現場において医薬品の適正使用を指導した。

(2)　医薬品残留検査

出荷のために水揚げされる養殖ブリおよびマダイを対象に背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。ブリはオキソリン酸の残留について中部海域から'92年１月22日，２月17日・21日に，塩酸オキシテトラサイクリンについて東部海域から１月22日に，マダイは塩酸オキシテトラサイクリンについて中部海域から１月17日・22日にそれぞれ５検体づつサンプリングした。

残留検査は財団法人日本冷凍食品検査協会神戸事業所に委託し，その結果，全検体とも医薬品の残留は認められなかった。

2　特定魚類防疫強化対策事業

1） 特定魚類防疫強化対策

(1) 魚病発生防止対策

ア 養殖場の定期観測

毎月１～２回，各地域の養殖漁場１～３ヶ所で水温，ＤＯ，比重および透明度を測定した。

イ 魚病情報の収穫・伝達

ブリの黄だん症・上弯症，マダイのイリドウィルス感染症，マダイ・トラフグの白点病および県内魚病発生状況について，養殖研究所，南西海区水産研究所，日本水産資源保護協会，関係県，県内養殖業者および関係漁業協同組合等の間で魚病情報を収集・伝達した。

(2) 防疫対策定期パトロール

各養殖地域を月１～２回パトロールし，ブリおよびマダイの健康診断，魚病の予防治療についての指導ならびに防疫監視を行い，魚病発生の未然防止に努めた。

(3) 種苗魚病検査

ブリおよびマダイの養殖用種苗を対象に実施した。ブリではビブリオ病２件，類結節症３件，細菌感染症１件で，いずれも病原菌が分離された。マダイではビブリオ病１件，イリドウィルス感染症４件，不明２件で，このうち病原体が確認されたのはビブリオ病，滑走細菌感染症，ビバギナ症で，イリドウィルス感染症については脾臓のスタンプ標本の病変で確認した。なおビブリオ病１件と不明２件は後に症状からイリドウィルス感染症と診断した。